

令和2年10月1日

各位

徳島県剣道連盟
会長 三木 毅
(公印省略)

徳島県下における剣道大会、錬成会等の開催方針について（通知）

最近、全国的に新型コロナウイルスの感染が減少傾向を示してきていますが、全日本剣道連盟（以下全剣連という。）は、令和2年8月27日、「主催大会実施にあたっての感染拡大予防ガイドライン」を制定したものの、全剣連主催の大会等については全国大会のため開催できない状態が続いています。

徳島県剣道連盟も全剣連の方針に沿って、県下の大会、錬成会等について自粛という慎重な運営を行ってきましたが、他の競技においては感染対策をしっかりと実践し、各種大会等に前向きに取り組んでいるのが現状です。

最近の県内の感染状況で心配なのは、大人が知らないうちに感染し家庭にウイルスを持ち込む家庭内感染をおこすことです。少年剣士の剣道大会は、選手だけの無観客で開催すれば大きな問題はないと思われませんが、大人である保護者等が観覧席や会場一杯に密集する状態は、感染率が高まるため絶対に避けなければなりません。県連盟としては、県下の選手を集めての剣道大会、錬成会はまだ自粛する必要があると判断しています。県外との交流についても同じです。

しかし、いつまでも消極主義では剣道の活性化や競技力向上につながらないことから、郡市単位や各支部単位での剣道大会、錬成会等については、郡市の感染状況や自治体、施設管理者の方針、関係者の意見・要望等を総合的に判断し、全剣連の「主催大会実施にあたっての感染拡大予防ガイドライン」の感染対策を行うことで、大会等の開催を認めることとします。

その基準は下記のとおりです。

記

1 大会等が開催できる基準

(1) 原則郡市や各支部単位での大会、錬成会等

少年剣士6年生を送る大会、錬成会、市体育祭等など

(2) 大規模にならない県下の交流稽古会、密集とならない地方での大会の開催

大規模の定義は難しいですが、選手と応援者（保護者等）の合計数が会場の収容人員（観覧席数）の半分程度とし、会場の収容能力があっても選手数は約100名以内と解釈して下さい。